

森六ホールディングス(HD)は、4月に森六ケミカルズと森六テクノロジーズの事業を継承し、同月に商号を森六に変更した。森六ケミカルズ(現在のケミカル事業本部)のグループ企業で無機・有機化学品受託製造の五興化成工業(福岡県大牟田市)では、2024年12月に森六テクノロジーズ(現在の生産事業本部)出身の池野裕幸氏が社長に就任、今後は森六の新体制の下、新たなビジネスの育成などに努め、27年度までに売上高を現在の1.5倍に引き上げたい(池野社長)と抱負を語っている。

新ビジネス育成 着々と

五興化成工業 池野 裕幸 社長



27年度までに売上高1.5倍

社長就任について池野社長は「社員の方々が温和で、ディスカッションがやりやすいという印象を持った。自身は自動車

関連ビジネスを主力とする森六テクノロジーズで生産技術や営業などさまざまな業務に携わってきたので、そこで培った知見

・電子関連材料の新規案件に取り組んでいる。現在には試作だが、今後は量産への対応も視野に入れ

を一新したことで製品の幅が広がり、生産量も増加する」そう、これが新規案件の拡大にも寄与しそうだ。

今後の取り組みについて池野社長は「核となる仕事を確立し、しっかりと地盤固めを行う。有機溶剤を取り扱うこと

を工場を含む当社の改善に生かしたいと考えている」と話している。

24年度の業績については、単月では黒字化を達成したものの通期では前年度比マイナスになった。ただ新規ビジネスのタネが徐々に育ちつつあるようだ。23年から電気

23年6月から実施してきた反応棟の刷新については、「これまでは水系反応の受託が多かったが、今回反応設備を一新したことで、有機溶剤を使用する有機合成が可能になった」と説明する。設備

化学品の受託製造に次ぐ新たな取り組みとして検討している同社オリジナル製品の開発については「まず基礎体力を付け、その後にノウハウを活用して進めていきたい」としている。